

経済・金融 フラッシュ

8月マネー関連： 国内景気低迷で日銀券の低い伸びが続く

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

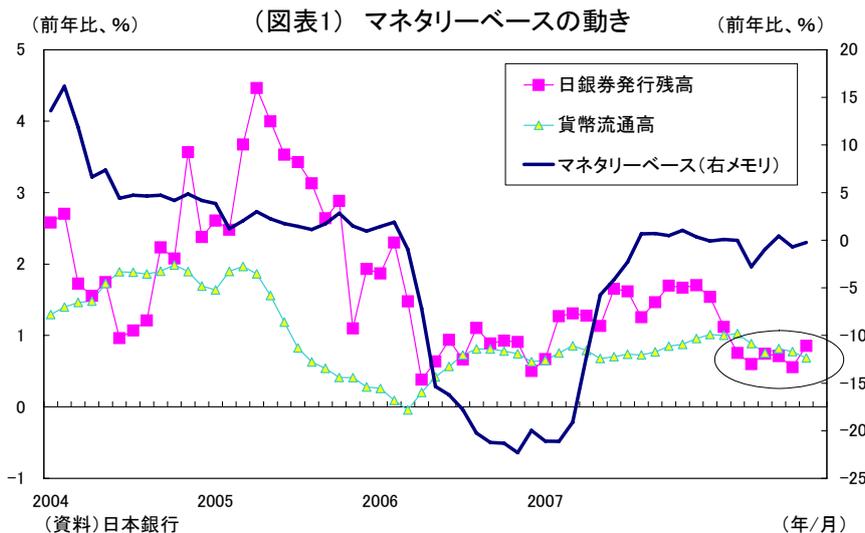
TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. マネタリーベース：国内景気低迷で日銀券の低い伸びが続く

8月のマネタリーベースは、前年同期比0.2%減と、2カ月連続減少した(図表1)。

日銀券の発行残高は同0.9%増。国内景気の低迷で資金需要が減り、伸び率は今年3月以降、1%未満にとどまっている。

貨幣流通高は0.7%増、日銀当座預金残高は10.1%減と引き続き大きなマイナスとなっている。



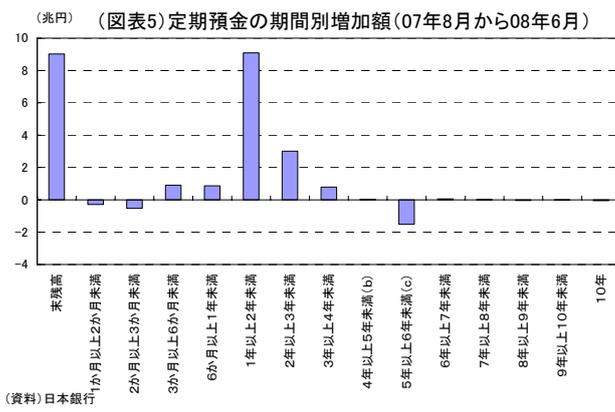
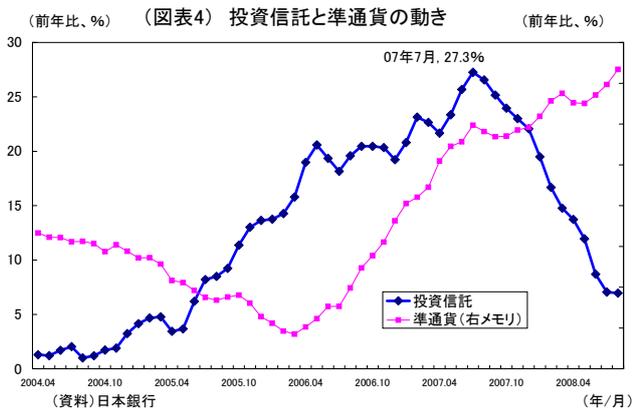
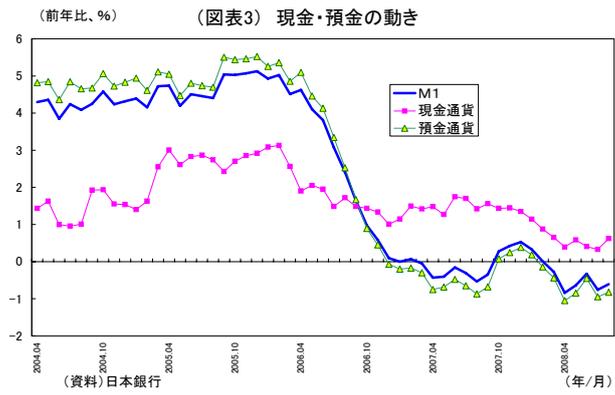
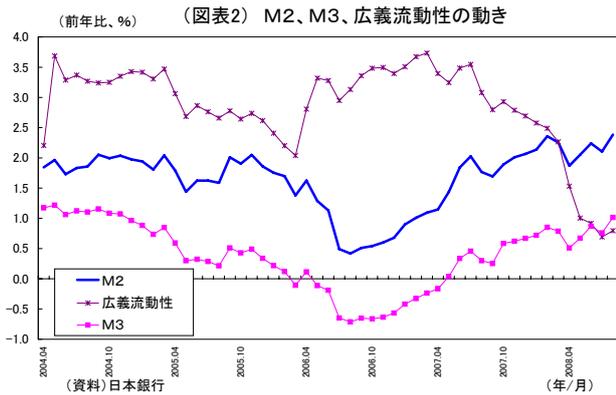
2. マネーストック：投信は3ヶ月連続の伸び率1ケタ台

M2(現金、国内銀行などの預金)は8月前年比2.4%増と、7月の2.1%増から伸びが拡大。

M2にゆうちょ銀などすべての預金取扱金融機関の預貯金を含めたM3も前年比1.0%増と、7月の0.8%増から伸びが拡大。M3に信託などを含めた広義流動性は0.8%増と10ヶ月ぶりに伸び率が拡大した。

広義流動性が徐々に伸び率を高めたが、マネー全体では低調な状況という判断を変える必要はない。

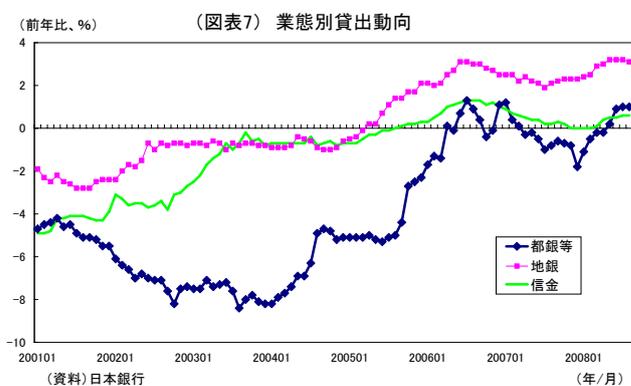
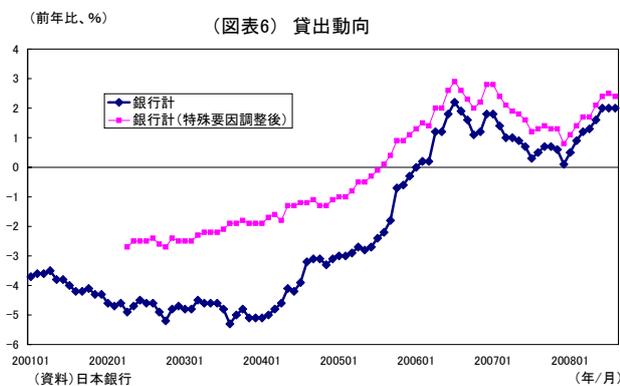
投信の伸び率が13ヶ月連続で縮小、3ヶ月連続で一ケタ台の伸びにとどまっている。定期預金などの準通貨の伸びは続いており、リスク回避・安全資産へのシフトは継続している。

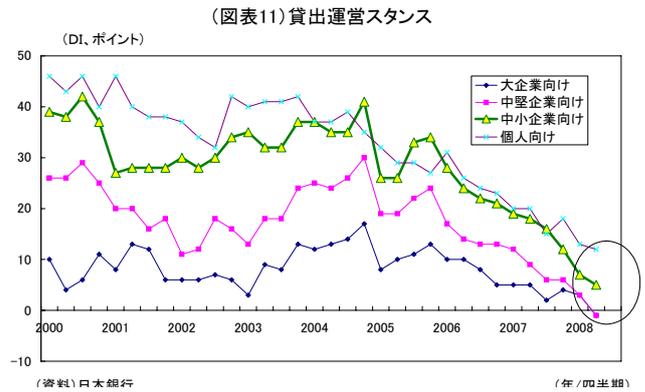
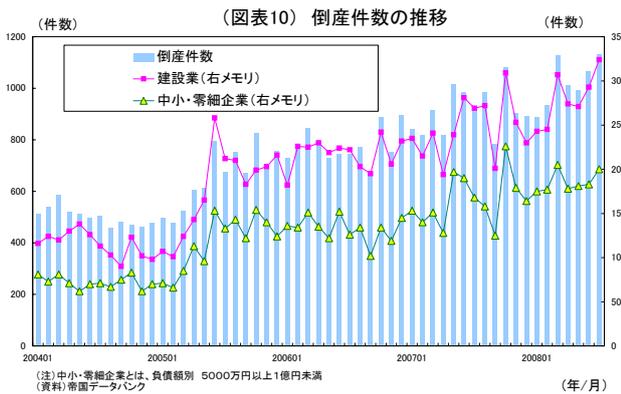
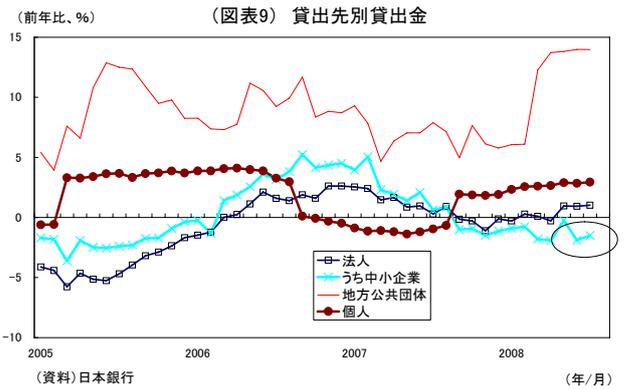
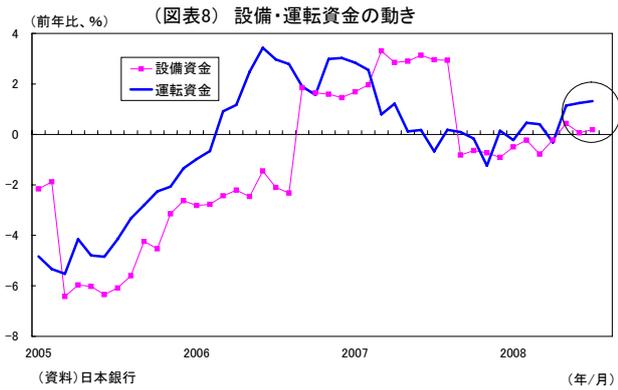


3. 貸出動向：先月と同じ、運転資金需要、地方公共団体の借り換え需要により増加

貸出・資金吸収動向等によると、8月の総貸出(平残、銀行・信金計)は前年比1.8%(31カ月連続のプラス)となった(図表6,7)。マクロ低迷の状況とは逆に伸び率が落ちないが、①原油高などによる運転資金需要(図表8)、②地方公共団体による借り換え需要(図表9)などの特殊要因で必ずしも貸出市場の状況がいいということではない。

先行きは、原材料高による運転資金需要や地方公共団体の借り換えはしばらく貸出増加に寄与しそうだが、①マクロの低迷、②貸出厳格化の動き、③住宅市場低迷から個人ローンが頭打ち、などから貸出が大きく増加するという状況にはない。





(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。